

ヤイラク
に於ける
馬匹の喜
ひ

初めて無
人の境を
脱す

灌木「チ
ハン」

料に供すべき物なきも、芋々たる雑草處々に生じ、久しく緑葉を見ること無かりし
眼には、斯の如き雑草も尙ほ懐かしき心地す。況んや數日來秣を食はず殆んど糧
を絶ちし馬匹の喜び如何ぞや。右往左往嬉々として草を漁り、清流に飲する様甚
だ可憐なりき。

一六、コロロン嶺の超過、電光形の坂路

六日氣温午前十九度、午後は驗温を怠れり。午前八時三十五分出發、午後二時十
分コロロン嶺を超越す。其の昇降坂共に頗る急なるが故に幅約二米突の路を電
光形に屈折せしむ、是に於て水平距離約二千米突なるも昇降坂は合して約六千米
突に延長せられ、其昇降に約二時間を費せり。

嶺を降れば氣候頓に一變して、暖和と爲り、呼吸も始めて促迫せず、従て頭痛漸く
去り、元氣大に加はる。但し耳鳴のみは數日の後まで癒えざりき。特に溪流の兩
岸には「チーハン」と稱する一種の灌木、即ち其葉樅に似て刺多く、黄紅色なる珠數形
の酸味ある小果を結ぶものなり、又其の鬱蒼たる間に「ポット」人の家屋點在するを
見しときは、一種言ふべからざる快感を覺えたり。況んやトシユクターシ出發以